

2008年(平成20年)2月21日(木)

水物語

太田川

◇ 57 ◇

石積み護岸を修復

中本 区 の
川 橋 そ ば

いつの時代に築かれたのか明確でなく、崩れたままになっている石積みの護岸を市民の手で修復できないか。広島市街地で水上タクシーを運営するNPO法人「雁木組」(氏原睦子理事長)が石

工職人や河川行政などと協力し、そんな企画を立てた。3月1、2両日、平和記念公園(中区)から本川橋を西側に渡ったたもとを舞台に、作業を実施する。

西国街道が走っていた江戸時代に築かれたとも言われる護岸は、高さ約90センチ、幅約20センチ。一抱えもある石を2、3段に組んでいる。

市民の手で来月1、2日

【宇城昇】

洪水で崩れたのを応急処置したのか、石の向きが不自然だったり、近現代にコンクリートで補修した跡もある。舟をつないでいた石柱は上部が欠けている。

作業はきれいに並び直すだけでなく、加工痕などと文献資料を照合して詳しい年代を推定してみる。「参加した市民が、護岸の持つ歴史的な価値を確認してほしい」という思いを込める。問い合わせは、雁木組(082・230・5537)。



本川橋西詰めに残る崩れた石積み護岸。船をつないだ石柱(手前)は上部が欠けている
—中区堺町の本川で